



＜『(有) 北海道建築工房』 小室さんのこだわり＞

『道産材へのこだわり』第2回は、建築設計事務所『(有)北海道建築工房』の小室さんにお聞きしました。

道産材は高い

「道産材は高い」「商品開発が下手」「木材業界は努力が足りない」・・・道産材に対する応援をしてもらおうと思っていたのに、小室さんからは厳しい指摘が次々と出てくる。

しかし、小室さんの設計する住宅では必ず「カラマツ」の使用が指示される。小室さんの設計する住宅では必ずといっていいほどカラマツの骨組みがあらわになっている。カラマツの垂木（たるき）が規則正しく整列している屋根の骨組みは、とても美しい。

小室さんがカラマツを使い出したのはかなり早い。20年以上前の、最初に設計した住宅でカラマツの羽目板を使用し、その後も一部分ではあるがカラマツを使用してきたという。本格的に使ったのは、1995年に建てた陸別町の保育園を設計してからで、以前、ウッドプラザ北海道の特集『[カラマツの家-第1回](#)』でとりあげた住宅もその一つだ。その後2002年に建てた“山の手コート”では、第6回環境・省エネルギー住宅賞「国土交通大臣賞」を受賞している。



規則正しく並んだカラマツの垂木が美しい屋根

カラマツは美しい



カラマツの構造材をあらわにした“山の手コート”

カラマツを使うのは、意匠的に美しいからだという。カラマツ人工林材は、ねじれやすい。そのため、これまで建築材として使われてきたトドマツやエゾマツと異なり、十分に乾燥され、乾燥後にプレーナー（電動かんな）がしっかり掛けられているため、そのままでも美しい。「隠すのがもったいない」と小室さんは言う。

また、カラマツは強度が高いこと、道内のカラマツ人工林は成熟してきているので、カラマツ製

材もどんどん出てくること、最近の健康志向・素材志向・シックハウス対策にカラマツ材の現し（あらわし）構造が適していることもカラマツを使う理由である。

ただ、カラマツ製材にも悪い点がある。カラマツ製材は乾燥が進んでいるため、割れやすいことがある。そのため、釘を使わずに“ビス”（電動ドリル・ドライバー専用のねじ）のみを使用し、場合によっては下穴を開けるほどの念を入れた大工さんもいた、とのこと。

また、最初のころ、工務店の抵抗もあった。カラマツは重く、ねじれやすいという性質が知られているためだ。実際のカラマツ製材はしっかり乾燥され、ねじれも少ないため、1回使ってもらえばカラマツに対する先入観は改まるという。

みんなで使って安くしようよ

話は最初に戻るが、小室さんは、木材産業に厳しい。「道産材は高い」「商品開発が下手」「木材業界は努力が足りない」……。カラマツを建築に用いるにはいろいろ手間がかかるのは分かるが、なぜ国産材が、遠くから運ばれてくる輸入材より高いのか。木材業界の構造改革が必要なのではないかと、厳しい宿題を頂いてしまった。

一方で、小室さんは周囲にカラマツの使用を勧めている。カラマツの需要が増えれば、安定的な大量生産につながり、値段が安くなるのではないかと、という考えからだ。実際に、小室さんの働きかけによりカラマツを使い始めた住宅産業もあるようだ。

厳しい言葉を発しながらも道産材を積極的に使ってくれる小室さんの設計は、私たちに道産材の新たな可能性を教えてくれる。カラマツ集成材を使用した十字架の塔は、その最たるものである。今後も攻めの小室さんに期待したい。また、私たちが小室さんの要望にこたえられるように努力しなければいけない。



カラマツを使った十字架の塔
（小樽シオン教会）

●（有）北海道建築工房の住宅建設に木材を供給している企業

[〔協同組合オホーツクウッドピア〕](#)

[〔丸玉産業（株）〕](#)

●北海道建築工房に関する詳しい情報は

[〔（有）北海道建築工房〕](#)